

眼で見る世界の森林 (6)



ニジェール最後の森林 (Parc National W)

西アフリカニジェールの首都ニアメから約150キロメートル南下するとW国立公園がある(北緯12°20'60"東経2°21'0")。ここは、同国ティラベリ州の最南端であり、ベナン共和国およびブルキナファソとの3国にまたがっている約2,200平方キロメートル(ニジェール国内のみ)



に及ぶ広大な自然公園である。呼称の「W」とは、公園内でニジェール川が大きくW字型に蛇行していることから名付けられた。ニアメからは、約1時間で同州サイ県サイ市を通過し、さらに1時間赤茶けた農地の間をしばらく走ると樹木に囲まれた公園の入り口Tapoa村に到着する。

この地域の年間降水量は500~700mm程度とされ、ニジェール国内でもっとも豊かな自然植生を有する場所である。植生は450種以上の植物からなり、樹木は、バオバブ(*Adansonia digitata*)、カポック(*Bombax costatum*)、アフリカオウギヤシ(*Borassus flabellifer*)の高木類が稀に見られ、その他は主にヨツバナカズラ属(*Combretum*)の*C. micranthus*や*C. nigricans*などが優占している西アフリカの代表的な樹種構成が見られる。他の農村

部では、バオバブなど法律で禁伐となっている樹木のみが畑地内に残されているのに比べ、ここではこれら樹木の樹高や密度も高く、極めて多様性の高い国内最大の植生である。

また、この豊かな森林を求め、多くの野生動物もここに棲息する。ゾウ、ライオン、ブッフオンズ・コブ等、

70種類以上のほ乳類や、猛禽類、渡り鳥等350種類以上の鳥類が確認されている。これらのことから、生物学的、生態学的重要性を認められ、1996年にはユネスコの世界遺産に登録された。

現在では、このように保護されている国立公園でも、周辺住民の侵入による樹皮、枝葉の採取による傷付けや、野火による資源の消失などいまだ問題も抱えており、豊富な木材資源量を維持しているわけではなく、1954年の公園指定から約60年を経た今でもなお、この最後の森林のためにニジェール国森林官は公園の保全に汗を流し続けているのである。

なお、概要や数値等は、UNESCOウェブサイト、ニジェール国政府発行の公園パンフレット等から引用した。

(国際農林水産業研究センター 竹中浩一)